

本年度の重点	1	○確かな学力の育成
目標(評価規準)		校内研修、研究授業を通して「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図り、生徒一人ひとりに資質・能力の三つの柱をバランスよく育成する。
重点に係る現状 設定理由		学習指導要領では、社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性」）をバランスよく育むことが求められている。そこで、校内研修・授業研究をとおして「主体的・対話的で深い学び」の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業改善を進め、これら三つの力をバランスよく育成するように努める。

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	教職員の回答は概ね肯定的であった。 【肯定的回答】 () 内はR 5 年度 ①「授業や指導法の工夫」……………100.0% (90.0%) ②「授業に意欲をもって取り組む」… 90.9% (95.0%) ③「適時適切な学習評価」…………… 95.5% (80.0%) ④「家庭学習の取組み」…………… 90.9% (70.0%)
各アンケート等の結果	①～③について、生徒アンケートでは概ね肯定的回答が得られた。一方、保護者アンケート②「授業に意欲をもって取り組む」、生徒・保護者アンケート④「家庭学習」には課題が見られた。 【肯定的回答】「判断できない」除く。() 内はR 5 年度。 ①「授業や指導法の工夫」……………生徒93.3%、保護者82.4% (生徒91.3%、保護者84.1%) ②「授業に意欲をもって取り組む」……生徒83.2%、保護者72.1% (生徒81.4%、保護者68.8%) ③「適時適切な学習評価」……………生徒91.2%、保護者79.8% (生徒93.2%、保護者79.4%) ④「家庭学習の取組み」……生徒(下段参照)、保護者78.7%(保護者74.2%) 1年生:「2時間以上」16.1%、「1～2時間」25.8%、「30分～1時間」24.2%、「30分以下」30.6% 2年生:「2時間以上」6.0%、「1～2時間」31.3%、「30分～1時間」32.8%、「30分以下」29.9% 3年生:「2時間以上」43.5%、「1～2時間」30.4%、「30分～1時間」14.5%、「30分以下」11.6% 参考(R 5 年度) 1年生:「2時間以上」5.5%、「1～2時間」24.7%、「30分～1時間」27.4%、「30分以下」41.1% 2年生:「2時間以上」12.6%、「1～2時間」34.5%、「30分～1時間」12.6%、「30分以下」31.0% 3年生:「2時間以上」38.6%、「1～2時間」22.8%、「30分～1時間」14.0%、「30分以下」17.5%
自己評価結果 (見解と改善方策)	「学習意欲」と「家庭学習」の課題が浮き彫りとなる結果であった。 ● ①「授業や指導法の工夫」、③「適時適切な学習評価」について、教職員・生徒・保護者とも一定の評価を得られた。 ● ②「授業に意欲をもって取り組む」について、教職員・生徒・保護者とも他の設問に比して肯定的回答が低い傾向である。 ● ④1・2年生の「家庭学習の取組み」について、「1時間以下」の生徒が過半数を占めている。 ※ 生徒が意欲的に学習に取り組むべく、授業改善の取組みを継続するとともに、自発的に学習に向かう仕掛けづくりや働きかけが必要である。
学校関係者評価結果	● 小学校の評議員会では、小さな頃から生活習慣や学び方を身に付けることの大事さが話題になった。小学校で躓いて理解できないままだと、先に進んでも意欲は湧かない。自分で学習し直すアプリはよいと思う。 ● 中学校に入ってから「勉強……」と言っても、それまでの習慣がなければムリ。やりなさいと言っても、子どもは部屋にこもってスマホを見たり、反抗して暴れたりする。体も大きくなっていて手に負えないと言っている保護者もいる。
最終改善方策	本校には小学校段階での既習事項や学習習慣が未定着の生徒が多く存在し、中学校での学習に対する意欲向上と学習習慣の定着が課題である。そこで次のような手立てを講ずることで課題解消の一助としていきたい。 ① 校内研究をとおした「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の取組みを継続するとともに、生徒が学習の面白さや達成感を味わえる授業をより充実させる。 ② オンライン学習支援システムの活用で小学校の既習事項を学び直せる環境整備を行う。 ③ 学習の基盤となる非認知能力拡充に向け、総合的な学習の時間や体験活動の充実を図る。 ④ 学区内3小学校と9年間を見通した学習面での連携を図るべく、体制を整える。

本年度の重点	2	○豊かな社会性の涵養
目標(評価規準)	基本的生活習慣の定着を図るとともに、「互いに認め合い、支え合い、高め合う集団づくり」を通して生徒一人ひとりの豊かな社会性の涵養に努める。	
重点に係る現状 設定理由	変化の激しい予測困難な社会を生きる生徒には、自らの人生を形作り、他者の人生に貢献していくための当事者意識や目的意識、必要な資質・能力を身につけさせる必要がある。そこで、自ら考えて責任ある行動をとれる主体性をもった生徒を育成するため、学校という集団生活の場を通して豊かな社会性の涵養に努めたい。今年度は、家庭と連携しながら基本的生活習慣の定着、規範意識や社会的マナーの伸張を重点とする。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	教職員の回答は、②・③において課題を残す結果であった。 【肯定的回答】 () 内はR 5 年度 ①「基本的生活習慣・規則正しい生活」……63.6% (80.0%) ②「社会のルールや学校のきまり」……86.4% (90.0%) ③「多様な人と関わり協働した学校生活」……77.3% (90.0%) ④「責任ある行動をとること」……90.9% (95.0%)
各アンケート等の結果	生徒・保護者とも概ね肯定的回答が得られた。 【肯定的回答】「判断できない」除く。() 内はR 5 年度。 ①「基本的生活習慣・規則正しい生活」……生徒78.6%、保護者78.4% (生徒76.1%、保護者70.6%) ②「社会のルールや学校のきまり」……生徒97.4%、保護者94.6% (生徒96.7%、保護者97.0%) ③「多様な人と関わり協働した学校生活」……生徒91.6%、保護者92.2% (生徒95.1%、保護者88.9%) ④「責任ある行動をとること」……生徒88.4%、保護者92.2% (生徒89.9%、保護者85.3%)
自己評価結果 (見解と改善方策)	「基本的生活習慣」の課題が浮き彫りとなる結果であった。 ● ①「基本的生活習慣の定着」について、教職員・生徒・保護者とも、他項目に比して肯定的回答が低い。 ● ①～③について、生徒・保護者の肯定的回答が教職員に比して上回る結果であり、教職員の判断基準との乖離があると考える。教職員(学校)の要求する水準について、生徒・保護者の理解・協力を得る必要がある。 ※ 全項目について、家庭・小学校との連携を深めるとともに、積極的・開発的な生徒指導を充実させることで、規範意識の醸成および社会性の涵養に努めていきたい。
学校関係者評価結果	● 三中の子どもたちは学年関係なく仲がよく、一緒に和気あいあいと登下校している姿をよく見かける。ただ、最近は自転車の歩道通行が多く、横に広がって歩いているのは危険。注意喚起を。 ● 小学校時代に許していたことを中学校に入ってから許さないのはムリ。小学校時代からきちんと子どもと向き合って話し合う積み重ねが必要である。 ● SNS上のトラブルや闇バイトへの勧誘など、新たな課題もある。この学校の生徒は、先輩後輩の関係から巻き込まれることが心配である。
最終改善方策	基本的生活習慣や規範意識は集団生活・社会生活に不可欠なものであり、これまでの指導をよりいっそう充実させるとともに、生徒・保護者へのさらなる浸透を図る。 ① 保護者への情報提供を積極的に行い、学校での取組みについて理解を求める。 ② 基本的生活習慣の定着に向け、学区内3小学校との連携体制を整える。 ③ 薬物や闇バイト等の誘惑について、関係機関と連携した啓発に努め、規範意識の醸成を図る。

本年度の重点	3	○安全・安心な学習環境と開かれた学校づくり
目標(評価規準)		生徒が安全・安心に学校生活を送れる環境づくりに努めるとともに、学校だより等による情報発信や保護者・地域との緊密な連携を通した「開かれた学校づく
重点に係る現状		コロナ禍の経験から学校は生徒の安全・安心につながる場でなければならないことが再確認された。これまで同様、命や人権の重みを最優先し、生徒にとって安全・安心な場所であり、安定した生活が送れる学校をめざしたい。また、「地域の学校」として、学校の教育活動の積極的な公開、情報発信に努めるとともに、
設定理由		学校と保護者・地域との相互理解を深め、連携・協力をしながら学校づくりを進める。

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	教職員の回答は、すべての設問において概ね肯定的であった。 【肯定的回答】 () 内はR 5年度 ①「子どもたちの安全・安心を守ること」…… 95.5% (95.0%) ②「命や人権の大切さ」…………… 90.9% (90.0%) ③「開かれた学校」…………… 90.9% (95.0%) ④「教職員の対応」……………100.0% (100.0%)
各アンケート等の結果	生徒・保護者とも概ね肯定的回答が得られた。 【肯定的回答】「判断できない」除く。() 内はR 5年度。 ①「子どもたちの安全・安心を守ること」……生徒90.1%、保護者86.3% (生徒83.7%、保護者90.4%) ②「命や人権の大切さ」……………生徒98.4%、保護者96.3% (生徒97.1%、保護者97.0%) ③「教職員からの承認」……………生徒93.2% (生徒89.1%) 「開かれた学校」……………保護者89.6% (保護者92.1%) ④「教職員の対応」……………生徒91.3%、保護者80.2% (生徒87.4%、保護者84.5%)
自己評価結果 (見解と改善方策)	教職員・生徒・保護者とも安全・安心な学習環境と開かれた学校づくりについて概ね高い評価が得られた。 ● ①～③について、生徒・保護者ともに、学校が安全・安心の環境づくりや命・人権教育、情報発信に取り組んでいることを評価していることが伺える。特に、命や人権の大切さについては今年度も高評価であった。 ● ③保護者は学校が積極的に情報発信を行っていることに満足しており、生徒は教職員から認められていると感じていると考えられる。 ※「安全・安心な学習環境」は教育活動の大前提であり、否定的な回答がゼロとなることを目指した取組みを継続し、さらなる信頼を得られるようにしたい。
学校関係者評価結果	● 今年度、市内全校が任意加入を明確化したが、三中ではそのことを視野に入れて昨年度PTA組織を改編した。そのため、今年度のPTA活動はできることをできるだけ行って次年度に引き継ぐようにしている。また、学校任せになっている保護者、学校に顔を出さない保護者と学校の間にPTAが入って、学校の取組みを伝えるように活動してきた。
最終改善方策	「安全・安心な学習環境」は教育活動の大前提であり、否定的な回答がゼロとなることを目指して取組みを継続し、さらなる信頼を得られるようにしたい。 ① 今後も生徒一人ひとりに寄り添い安心して学校生活を送れる環境を整備するとともに、情報発信の充実を図り学校に対する理解を深める。 ② PTA活動が、「子どもたち」のための活動を、「保護者主体」で、「自立」して活動する組織となることをめざすとともに、学校と保護者を繋ぐ要となるような環境整備を進める。